

# Cisco CRS サーバにログインしようとしたときに、SQLUtility セットアップが無期限に実行される

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

## 概要

高可用性クラスタ上で Cisco Customer Response Solutions ( CRS ) サーバをインストールした後、SQLUtility インストール プロセスが無期限に実行されます。クラスタのいずれかの CRS サーバにログインしようとするたびに、SQLUtility のインストール プロセスが開始されます。プロセスが完了したら、プロセスをキャンセルするまでインストールが再開されます。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Contact Center Express
- SQL 2000
- Active Directory ( AD )
- DC ディレクトリ管理

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified Contact Center Express 4.0(x)**注:** この問題は、Cisco Unified Contact Center Express 4.0(x) にのみ適用されます。Cisco Unified Contact Center Express 4.5 以降には適用されません。
- SQL 2000

注: この問題は、IP IVR または IP QM には適用されません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 問題

高可用性クラスタ上で Cisco Unified Contact Center Express 4.x サーバをインストールした後、SQLUtility インストール プロセスが無期限に実行されます。この問題は、Cisco Bug ID [CSCsc72942](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) に記述されています。

CRS と共存する、または展開サーバ上の高可用性クラスタに SQL 2000 をインストールする場合、2 番目のサーバに SQL 2000 をインストールする前に、SQL 2000 がインストールされた 1 番目のサーバの設定を完了し、データストア コンポーネントを有効化する必要があります。この手順に従わない場合、SQLUtility プログラムが繰り返し実行されます。

## 解決策

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. [Appadmin Control Center] から [Remove Server] を選択し、クラスタから 2 番目のデータベースサーバを削除します。
2. 1 番目の CRS サーバへの SQLUtility のインストールを実行します。
3. クラスタにノードを追加するため、2 番目のデータベースサーバで CRS インストーラを実行します。
4. 2 番目のデータベースサーバでサーバのセットアップを実行します。

[問題](#)のセクションで示したように CRS サーバのセットアップを行わない場合、この手順により、DC ディレクトリ環境でのこの問題は解決し、2 番目のノードに CRS を再インストールする必要はありません。

注: この手順は、Active Directory 統合システムには適用できません。

1. 2 番目の CRS データストア サーバの LDAP ( AD または DC ディレクトリ ) を開き、`ou=clusters`、`ou=<profile_name>`、`ou=Nodes`、`ou=<nodeid_secondserver>`、`ou=<NodeSpecific>`、`ou= Components`、`ou= <CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX>` にドリルダウンします。注: `profile_name` はクラスタのプロファイル名を表し、`nodeid_secondserver` は 2 番目の CRS データストア サーバを表し、`CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` は CRS リポジトリ データストア文字列を構成する LDAP フィールド名を表します。
2. `CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` を右クリックし、[Properties] を選択します。
3. [Modify] を選択し、`CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` を `CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX.bak` に変更します。

4. 1 番目の CRS ノードで、SQLUtility のインストールを続行します。
5. 現在のデータベース サーバの SQLUtility のインストールが完了したら、2 番目の CRS データストア サーバの LDAP プロパティ フィールドの名前を元の名前：**CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX**に戻します。
6. 1 番目の CRS ノードの SQL データベースのアップグレードが完了したら、2 番目のサーバの SQLUtility を実行します。

## 関連情報

- [音声およびユニファイド コミュニケーションに関するサポート リソース](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)